

- 法人は、利用者一人ひとりの想いを大切に、これを共有し、その想いが実現できるよう支援します。
- 職員は、職業人としての自覚を持ち、自ら資質の向上を図り、豊かな人間性の醸成に努めます。
- 法人は、地域と共に暮らし、地域と共に活動して地域のコミュニティ発展に寄与します。

復活!! 口谷秋祭り開催!!



表紙写真提供：ワークプラザ宝塚

Contents

理事長挨拶	2P
コンサルテーションプロジェクトについて	3P
かしの木工房こはまリニューアル	4・5P
2023年度各事業所行事紹介	6・7P
ときめき-後援会ニュース／編集後記	8P



令和6年 新年のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。

皆様にはお健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

ここ数年は新型コロナウイルス禍により、先の見えない不安や落ち着かない日々が続いておりました。また、エネルギーや生活用品等の物価高騰、気象変動による災害等への不安など生活を脅かす出来事も多いように思われます。何気ない日常を平穩に過ごすことができているのは、さまざまな国や人々とのつながりの中で支えられ、暮らしが保たれていたことに気づくことも多く、改めて周りの方々への感謝を忘れないことが何よりも大切だと日々感じております。疫病や紛争が一日も早く治まり、生命が守られ、穏やかな日常が戻りますことを心より祈念いたします。

当法人活動もご利用者とそのご家族をはじめとして、地域の皆様や関係機関が法人職員との相互の理解と協力により、47年目を迎えることとなりました。本年は、「第3期行動計画（5か年）」策定の年となります。法人設立から同じ年月を経過している「宝塚さざんかの家」も老朽化しており、建替えに向けての計画にあたっては、今後、10年サイクルで順次建替えが必要となる法人全体の施設環境等も考慮しながら、総合的な施設整備、事業の在り方について策定していきます。

労働人口の減少、報酬改定等による増減収、働き方改革等による労働環境、賃金体系等の変化など、先々を予測しながら法人運営を安定的に継続することが増々難しい時代になっているとも感じています。限られた財源での運営や人材確保・育成・定着についても、工夫を重ね、消極的にならず、明確な目的やビジョン等を計画に盛り込めるよう検討を重ねていきたいと考えております。

また、この4月には、障害・医療・介護分野での報酬改定が行われます。障害福祉サービス等の予算額は、社会保障関係費全体の伸びを上回る水準で増加しており、利用者数や事業所数はともに、直近10年間で約2倍となっている中、法人の各種活動や事業が、お一人おひとりにとって適切に提供できているかを再検し、今後の在り方について検討を進めていきたいと考えております。

結びにあたり、皆様のご多幸をお祈り申し上げるとともに、本年も変わらぬご支援をお願い申し上げます。

令和6年元旦
理事長 今西 則行

コンサルテーションプロジェクト（交流研修）について

人材確保・育成・定着PT

松永 仁美

経緯について

2019年より新型コロナウイルス感染症の為、法人全体の研修会や交流会を行う機会がとてまもなくなくなりました。特に2019年以降に入職した新任職員同士の交流の場が激減してしまい、事業所によっては、20歳代前半の新任職員の次の年代が、40歳代前半といった状況もあります。

年齢や勤続年数の近い仲間だからこそ共感できる喜びや、悩みを共有する事で、やりがいや、楽しさに繋がり、事業所間での交流を通して、視野が広がるきっかけ作りと、相談し合うことが出来る関係性の構築の場を作りたいという思いからコンサルテーションプロジェクト（交流研修）に至りました。

- ①目標…各職員が所属する事業所のみならず、他の事業所の管理者や職員とも話をする機会を作り、様々な情報交換や相談し合うことができる関係性の構築をねらいとする。
- ②対象…法人研修Aグループ（入職1年目～6年目までの新卒採用者である職員）と全管理者。

第1回目 内容

- 自己紹介
- アイスブレイク 「マシュマロタワー」
- グループワーク
「お気に入りのスポットお勧めの過ごし方は？」
「仕事をしていて、楽しい、やりがいを感じる瞬間は？」

第2回目 内容

- アイスブレイク 「ヘリウムリング」
- グループワーク
「自分が思い描く、理想の人生は？」
「ICIDHとICF」 恋です！～ヤンキー君と白杖ガール～を題材に行いました。



コンサルテーションプロジェクト第2回目までを終えて、初回はグループ内でも初めて顔を合わせる方も多くよそよそしい雰囲気から始まりました。しかし、アイスブレイクから、少しずつ緊張が解け始め、グループワークが始まると、自然と勤続年数の長い先輩職員が、新任職員が話しやすい様にフォローをしたりと、ほっこりする場面もあり、時間が経つごとに和気あいあいと、皆が良い表情で積極的に参加している姿が見られました。個々の職員の素敵な一面が見られる、良い機会となりました。

来年度も、この取り組みを続けていく事で、所属する事業所のみならず、他事業所の職員と様々な情報交換や相談し合える関係性を構築できるように取り組んでいきたいと考えております。

かしの木工房こはまと宝塚めふプラザの統合 ～ 新たな事業所『かしの木工房こはま』としてのスタート～

かしの木工房こはま
所長 山本 正一

平成24年(2012年)にお菓子を作る事業所の“菓子”と、大きくすくすくと育ち毎年どんぐりの実をつけてこどもたちから大人まで人気の“かしの木”をかけ合わせて設立された「かしの木工房こはま」と、平成21年(2009年)にコミュニティプラザに“世界に一つだけの物づくりの事業所”として設立された「宝塚めふプラザ」が、令和5年(2023年)9月に統合となり、新たに『かしの木工房こはま』として運営を開始いたしました。

これからのかしの木工房こはまは、製菓作業や織物等の自主生産品を取り組む“モノづくりの事業所”としてお客様に喜んでいただける製品づくりを目指し、企業提携作業や、清掃作業等を通して社会への関りや役割を持っていただく機会を提供させていただきます。

また創作的活動(生活支援プログラム)を充実させ日々の楽しみを持っていただきながら毎日通いたくなる事業所を目指します。

今まで別運営であった事業所が統合し、ひとつの事業所として運営を行うことにより、ご利用者の皆様により幅広い選択肢の中で本当にやりたかったことを見つけられるということが統合の大きなメリットであると考えており、交流を通じて、「こんなことがやってみたい!」という思いにこたえられるような事業所運営を目指していきたいと思っておりますので、これからのかしの木工房こはまへご理解・ご協力の程よろしくお願いたします。



事業所の様子

製菓作業・自主生産品



かしの木工房こはまでは、おいしいお菓子・世界にひとつだけの製品を皆様にお届けできるように日々楽しいモノづくりを行っています。

企業提携・清掃作業・販売



- 企業提携(ダイソー商品の組み立て)
- プラザこむ清掃、除草作業
- 小浜地域のポスティング
- 医師会発行物の運搬業務
- イベント、店頭販売
- きずきの森での野菜作り

様々な作業を通して、それぞれの役割りをもって頂けるようにしています。統合したことで作業の幅も広がりました。

創作的活動等



広い食堂にシアターセットを使った映画館さながらの映画鑑賞や、ボランティアによるパン作り、日々の楽しみや季節のイベントなど様々な楽しみの機会を持っていただいています。

- 音楽療法
- 料理活動
- 制作活動
- 映画鑑賞
- ドライブ
- 季節ごとのイベント
- 日帰り旅行
- パン作り
- 外出活動
- ウォーキング 等





2023年度

各事業所 行事紹介

ワークプラザ宝塚の様子をピックアップしてご紹介します。

私達のモットーは「がんばって働いたら、思いっきり遊ぶ!! 一生懸命働いたら一生懸命遊ぶ!!」です。ご利用者も職員も一緒に働き、楽しむ・・・そんな毎日を繰り返しています。これからも、頑張っていて、思いっきり楽しむぞー!



毎年恒例のかき氷パーティ。今年は3回行うことができました。職員がかき氷屋の店員になり、一人ずつ氷を削る体験をしたあとは好きな蜜やトッピングを指さしなどで自由に選びます。「冷たい!!」「おいしい!!」「またかき氷してね!」と笑顔です。



日帰り旅行を2グループに分けて行いました。中型バスを借りて淡路島に行き豪華なお昼ご飯を食べました。いつもよりも豪華なお昼のメニューに皆さん自然と笑顔がこぼれています。そして、以前もお世話になったみかん農園でみかんを2個とって食べ、お土産用に2個とりました。



3つの作業班と屋外作業班に分かれて、納期に間に合うようにご利用者・職員共に力を合わせていきます。屋外班では、毎日暑い日も寒い日も行きます。草抜き・草集め・トイレ掃除・水やり・車の洗車など幅広く行っています。作業班では100均商品の組み立て・ペットフードの計量と袋入れ・箱折り・車椅子の清浄など幅広い分野にわたり、各々が個々の力を発揮しています。

その他、各事業所で様々な行事や取り組みを行っております。

いきいき宝塚
ハロウィンパーティー



かしの木工房こはま
パン作り



宝塚くるみの里
七夕夏祭り



宝塚あしたば園
日帰り旅行



宝塚ざんかの家
バス旅行



宝塚けやきの里
けやきパーティー



ざんかグループホーム
夏祭り

宝塚ざんか福祉会

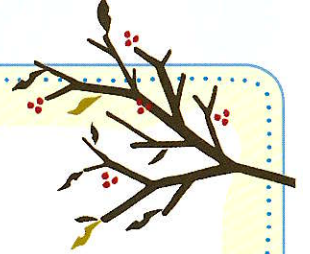
検索

詳細は法人HPをご覧ください。



ときめき

—宝塚さざんか福祉会後援会ニュース



令和5年度第一回理事会を10月3日に開催いたしました。簡単な自己紹介後、後援会の立ち上がりから知っている大野監事にさざんか福祉会後援会の成り立ちをご説明いただきました。以前は「みんなで考えよう子どもの将来」という思いで後援会に携われてきた保護者の方ほとんどが後援会の会員でしたが、現在では少なくなっています。何のために後援会を発足したのかを役員それぞれがその思いを振り返る会となりました。

後援会会費と名前はなっていますが、法人をささえるための協力金と考えて、基本に戻り、保護者の皆様に会員になっていただけたらと会が進められました。今、後援会が実情にあっておらず、検討が必要なことや、保護者の方への協力など、今後の課題があげられました。

役員一同、さざんか福祉会のために頑張っていきたいと思っております。皆様、ご協力をよろしくお願いいたします。
(宝塚さざんか福祉会後援会理事会より)

後援会の成り立ちや思いがこもった記事。
昭和53年10月1日号の機関紙より抜粋



みだしのタイトルは、この9月17日に、開催された阪神地区「手をつなぐ親の会」保護者研修会の「中心テーマ」であります。私は、いたらぬものですが、皆様のご推挙により、保護者会長に就任しました。私の気持ち、そのままだと表現しておりますので、拝借させていただきます。次弟です。

ひとりの知恵おくれの子供を抱えて、苦勞を重ねてきました。ゴルフ場に就職できたことをよろこんだこともありましたが、その切角の職場を追われることになった悲しさも、胸を去りません。私事を申し上げて恐縮ですが、会員の皆様は、その障害の程度に応じ、それなりに、それぞれの問題をかかえて、ご苦勞の多いことと推察いたします。

たまたま、宝塚さざんかの家の保護者となり、保護者会員として、施設と結びつき、研修の機会がもてる様になりましたのも、何かのご縁でございます。

お互いに、愚痴を言い、心の憂さを憐れずのも、よいことですが、手をつないで、ひとりでは出来ないことを、皆の協力によって、一つ一つ実現させていきたいものだと存じます。

私は、今度の阪神地区の研修会で、私の息子の失敗に今更に及み、企業の職場の中に、生活指導員を配置して、対人関係や作業指導の世話をしたくするようにする。———ことを、提言いたしました。

こと了承下さいます。幾多の苦難の道を共に歩んで参りましたよう。



宝塚さざんかの家
保護者会長
馬場 幸三



募集

会費／一口 3,000円 特別会費／一口 10,000円

事務局は、法人事務所と同じです。 0797-83-6544



編集後記

広報・啓発PTでは法人広報誌である『SasanQua通信』以外に、法人ホームページの活用についても検討しています。今回の紙面“2023年度 各事業所行事紹介”にありましたように当法人のホームページにも様々な情報発信を行っておりますので、そちらもアクセスして頂き、ご意見やご感想を頂けると幸いです。今後とも宜しくお願い致します。

片山 翼